

「生き粋」とは…

- 趣味や生きがいをもつ
- 新しいことに挑戦する
- 人や社会とつながる
- 「ありがとう」を忘れない
- 「オシャレ」を楽しむ
- 健康に気を配る

□発行・編集 三春町教育委員会生涯学習課

私と生涯学習
生涯学習課長 伊藤晴之



私と「生涯学習」の関わりは、仕事としては今から二十年前ほど前に遡ります。それ以前も、学生時代は軽音楽のバンド活動だったり、社会人、とくに子を授かってからは、その成長にあわせて、スポーツ少年団や生涯学習課が催す数々のイベントにも親子で参加してきました。

まはらの内側から、窓口を通り抜け各部屋に集う先輩方を見てみると、みなさん実際に楽しそうに取り組んで居られます。二十年前にお見かけした方も、多くの方が現役で活動されていらっしゃいます。楽しさこそが長続きの秘訣なのでしよう。

今役職定年を目前にして思うのは、あとのくらい体の自由が利いて、やりたいと思ったことを実現できるだろうかということです。「生涯学習」は新たなチャレンジを意味する言葉だと思っています。新しさを恐れない心で、まだ何の準備もできていない私ですが、小さくとも新たな挑戦をし続けていきたいと考えています。

岩江さくら峠学級

岩江さくら峠学級

副會長 江嶋 孝男



当学級は山田地区、上舞木地区、下舞木地区の三方部の会員で構成されていて、それぞれの地区の頭文字「山」「上」「下」の文字を合わせた「峠」の文字にちなんで「さくら峠学級」という名称にしています。現在三一名の会員で、七二歳から九一歳までのシニアで構成されていて、月一度の会合を楽しみにしています。健康な方が殆どで皆の笑顔がフレイル予防となっています。



【明德大学第54期移動学習(10/31)奥会津方面】

移動學習

年二回の移動学習があり、特にその日を心待ちにしています。十一月の移動学習は山形方面の日帰り旅行でした。最初は南陽市の熊野大社でガイド付きで案内してもらいました。五十段の階段を登るとき「階段の幅が広くて登りづらいなあ」とぼやいたところ、ガイドさんが「この階段は馬が登れるように幅が広がっています。」とのこと、すぐに納得してしまいました。本殿の裏には三羽のうさぎの彫刻があつて三羽見つけると願いが叶うとか。隣の女性が「あそここの丸い輪の上に横を向いている一羽がいるよ。」と教えてくれました。目を凝らして見ても見つけることができません。結局一羽も見つけることが出来なかつたので「私の願い事は何一つ叶わぬか。」と肩を落とした次第です。午後、高畠町の浜田広介記念館の見学です。彼は異色の童話家で、童話「泣いた赤鬼」は有名だそうです。「日本のアンデルセン」と呼ばれているそうで、恥ずかしながら知りませんでした。記念館は童話のようなかわいい建物で、赤鬼の童話を上映して頂き、新しい知識を出て頭が刺激を受けました。見学も良かったのですが、昼食は米沢牛釜飯御膳を戴き、お腹も刺激を受けて楽しい一日を過ごして帰ってきました。今に至って願い事はしていません。



【舞鶴大学移動学習(11/12)宇宙科学教育研究センター】



【明德大学第53期移動学習(10/16)野口雨情記念館】

中郷さくら学級の活動について

中郷さくら学級 活動について

副委員長 川音 栄子



中郷さくら学級は中郷地区（込木・芹ヶ沢・柴原・貝山・滝・蛇石・樋渡・根本・狐田・過足・春沢）の十一地区より構成されています。中郷地区住民の六十歳以上で向学心に燃える者を学級生としています。現在会員は三四名で、委員長、副委員長、庶務、会計、各地区より幹事数名で会の運営にあたっています。

年間の活動計画の策定にあたっては月一回の教養、健康、防災、事故防止、制作、移動等の学習、また施設等で清掃奉仕を行うものとし、会員の皆様にもご意見を伺いながら、三役でその都度相談しながら進めています。一月の新春講話会、二月の閉講式、三月の定期総会、四月の開講式は恒例行事となっています。本年度の防犯講話は、中郷駐在所の鈴木巡査様から「オレオレ詐欺防止」や「事故防止」「出かけるときは、戸締まりをしっかりすること」などのお話をいただき、被害にあ

わないよう一人ひとりが気をつけることを学びました。十月十七日には「フレイルと認知症予防について」という演題で、星総合病院の理学療法士、竹内宏先生から講話をいただきました。健康の増進と会員の交流としてグラウンドゴルフ、ゲートボールも実施しています。ルールが分かる人も分からないう人もお互いに助け、教え合い、和気あいあい楽しめました。

年数回、一泊移動学習、日帰り学習も実施しています。本年度は、七月は飯坂温泉、十月は遠川田温泉に行きました。温泉に入って日頃の疲れをとり、会員同士、友好の輪を広げて楽しいひとときを過ごして参りました。



【御木沢清明学級(10/23) 三春駒の絵付け】



【要田ひまわり学級移動学習(9/30) 福島民報社印刷センター】

奉仕作業は、毎年三春の里田園生活館周辺の清掃作業を行っています。お互い協力しながら作業を進め、お客様が気持ちよく来店されることを願って作業をしています。

さくら学級一日の活動の流れは、各地区の集合場所にバスが迎えに来て、学習終了後は一緒に昼食をとりまします。帰りもバスに乗り、集合場所まで送っていただきます。車の運転の心配もなく、ゆったりとした気持ちで会話することで、心の健康、頭の健康が実感できます。そして笑顔で家路につくことができます。中郷さくら学級は、日々の暮らしの活力として、楽しく笑顔になる学級です。皆様の参加をおまちしております。

すずらん学級との出会い

中妻すずらん学級

庶務 松崎 正夫



私がこの学級の設立にかかわったのは、自分が社会教育指導員として「まほら」で町の明徳大学と各地区の高齢者学級の運営のお手伝いをさせて頂いていた時でした。

前町長の鈴木義孝さんより「他の地区の高齢者学級の手伝いだけではなく、自分の地域での学級の立ち上げと運営についても検討しては」との話があり、考えてみれば町内各地を見た場合、この中妻地区だけが高齢者学級がない（以前に一時学級があった時期がある）状態だったのです。

その後、当時の中妻地区公民館長の志田善一さんに右記の内容を説明し、地区のまちづくり協会役員会に時間を頂き、学級の必要性や学習内容について説明をしました。

その結果、令和三年四月の設立に向けた学級生募集に始まり、当時の生涯学習課高齢者学級担当の遠藤俊一さんの指導の下、規約、年間学習計

画、収支計画などを作成し、令和三年四月の開講式を迎えました。

今思い起こせば、人間の平均寿命を考えた場合に、自分があと何年丈夫で過ごすことができるのかなど、昔は十年ひと昔であったことが、今は五年ひと昔？

そんな時代に生かされている自分なので、出来ることは行い、出来ないことには少し挑戦してみようかなどと考える今日この頃です。



【沢石さわやか学級(11/20) フレイル予防と軽体操】